

「2024年国立台湾大学スプリングスクール派遣報告書」

京都大学文学部2年 大形 和佳那

① 学習成果

今回の台湾短期留学を通じて、中国語のリスニングとスピーキング能力が大きく向上した。これまで2年間中国語を学んできた基礎があったため、毎日中国語に囲まれる環境の中で、特に会話能力の成長を実感することができた。1回生の時に香港へ留学した際にもスピーキングの向上を感じたが、今回はそれ以上の成長を感じた。中級レベルまで学習を進めていたことが、会話能力を集中的に伸ばすうえで大いに役立ったと思われる。

また、中国語の文章を読むことに対する抵抗がかなり少なくなった。まだ流暢に読めるわけではないものの、文字を見た際に単なる難解な記号の羅列としてではなく、意味や構造を持った文章として認識できるようになった。その結果、中国語でのインターネット検索がある程度できるようになり、情報収集の幅も広がった。

さらに、繁体字に対する理解も深まった。留学当初は、日本語の漢字に比べて画数の多い繁体字が読みづらく感じたが、学習を重ねるうちに簡体字との対応関係が自然と理解できるようになった。最終的には、繁体字で書かれた文章にもある程度慣れ、以前よりスムーズに読み進められるようになった。

今回の留学を通じて、中国語のスキルを総合的に向上させることができ、HSK5 級に向けて学習を進めていきたいと思う。

② 海外での経験

台湾といえば夜市の印象が強いかもしれないが、私が特におすすめしたいのは朝市である。夜市は食べ歩きを楽しむ場所として有名だが、朝市は地元の人々の日常の食事を支える場であり、よりリアルな食材や料理に触れることができる。特に、店主との距離が近い小さな店では、ちょっとした雑談を交わす機会もあり、その中で中国語の上達を実感することができた。

また、現地を訪れることで、蒋介石に対する評価について新たな視点を得ることができた。日本の世界史の教科書には言及されていない歴史に触れ、学校で学んだ蒋介石の印象とは大きく異なることを実感した。台湾大学の学生との交流を通じて、蒋介石に対する国民の評価が分かれていることを知ったが、彼の死後に建てられた中正記念堂の広場の名称が改名されるなど、大多数の評価は必ずしもポジティブなものではないと感じられた。歴史や政治に関心がある人には、中正記念堂を訪れることを強く勧めたい。

③ プログラム内容

ほとんどの日のスケジュールは、午前の約3時間の語学授業と、午後の文化講義・文化体験や遠足からなっている。また、学生チューターと交流できる「Tutor Station」という場もある。

語学授業は5つのレベルに分かれており、最初の数回の授業で様子を見ながらクラスを変更することも可能であった。

文化体験や遠足の内容は年度ごとに異なるが、今年は団扇作り、傘作り、タロイモボール作りの体験が用意されていた。フィールドトリップに関しては、公式 SNS を参考にすると詳しい情報を得ることができる。

また、文化についてのレクチャーもあり、英語でフィードバックシートを書くことが求められたが、講義の内容は興味深いものだった。特に印象に残ったのは台湾茶についての講義で、お茶の試飲もできたほか、台北の歴史についても学ぶことができた。

④ 進路への影響について

もともと私はヨーロッパへの1年間の交換留学を希望していたため、今回の短期留学がその計画に直接影響を与えることはなかった。しかし、このような短期プログラムを通じて異なる地域を体験し、さまざまな文化に触れることで、視野を広げることの重要性を改めて実感した。異なる価値観を理解し、多様なバックグラウンドを持つ人々と交流することは、自分自身の成長にもつながると感じた。今後もこうした経験を積み重ね、国際的な場で活躍できる人材を目指していきたいと考えている。